

## 2011年から2014年の間のFIG第7部会の活動について

2014年6月にクアラルンプールで開催された総会において報告された第7部会活動報告に従って、この4年間の活動を振り返る。

### 【報告の内容】

まず、第7部会の使命は、

- 地籍、土地管理、土地行政に関する全世界的な知識の交換、工場を提供すること
- 貧困に立ち向かう土地管理、土地行政ツールの開発を後押しすること、
- 経済発展の下支えのための基盤として、持続可能な土地行政を発展させることの重要性を広報すること
- 地籍、土地行政において先進、先端技術の利用を促進すること
- 民衆および関係者の土地行政における測量士の役割に関する理解を促進すること

である。

Roberge氏が部会長を務めた2011年から2014年までの4年間は、特に次のようなことに優先的に取り組んだ。

- 持続可能な開発に貢献するために、土地に関する権利の基盤と良好な土地管理を促進すること
- 自然災害と気候変動に対して日頃の準備と対応の能力を発展させること
- 土地管理に関する能力と管理能力の向上を目指す測量士の間の協力関係を発展させること
- 地籍の将来像を展開すること
- 電子的な土地管理の手続きに市民の直接参加の道を検討すること
- 土地所有にかかわる国際組織と協力すること

また、今季の特筆すべき活動として会議をこれまでFIGに出席が少ない地域で行うということがあり、2012年の年次総会をアルゼンチンのサンルイで、2013年の年次総会をカメルーンのヤウンデで、2014年の年次総会をカナダのケベックで開催した。ヤウンデとケベックはフランス語圏になるので、FGF（フランス語圏測量者連盟）との協力も推し進められた。また、UN Habitatとの緊密な連携がなければイベントの成功はなかった。

持続可能な開発に貢献するために、土地に関する権利の基盤と良好な土地管理を促進することに関してはサンルイ、ヤウンデの会議および世銀の土地と貧困に関する会議、FIGのイベント、Global Land Tool Network パートナー会議あるいはLADMのワークショ

ップなどでこれに関するシンポジウムを開催した。

#### ワーキンググループの活動

##### WG7.1 貧困対策の土地関連ツール

配布可能な成果

- LADM(ISO19152)、STDM(Social Tenure Domain Model) を含む
- FAO との協力で完成した土地所有に関する多言語シソーラス
- FIG ウェブサイト等を通じた土地の専門家向けの情報

#### 成果

LADM 第1版が2012年12月にISOの標準として公表された

これにはSTDMも含まれている。これらの標準はFIGの強力なサポート下にある。

LADMはUN Habitatの土地の権利連続体とFAOの土地、漁業、森林の所有権に関する信頼できる管理機構のボランティアガイドラインの実施を支援する役割も果たす。

LADMのワークショップが2012年にロッテルダム、2013年にクアラルンプールで開催された。

多言語シソーラスへの支援までは手が回らなかった。術語に関してはLADMに含まれるべきである。

##### WG7.2 土地管理、自然災害および気候変動

方針

自然災害や気候変動によりよく備え、対応する

#### 成果

2011年にFIGに気候変動タスクフォースができたことに伴い、このWGは災害に加えて気候変動にも留意しながら、土地管理と災害対応により特化した活動を行った。

2011年に部会長とWG副委員長がFAOの代表に会い、共同事業計画を開始、全般については計画通りの進捗を見た。

- ローマで開催されたFIGワーキングウィークで合同トレーニングワークショップを開催(Roberge, Zevenbergen, Roy, Mitchellが講演)
- AusAidが後援した太平洋地域での訓練においてMitchellが主導的役割
- FAOが後援したカリブ地域での訓練イベントにZevenbergenが貢献
- Mitchell, Zevenbergen, Royがそれぞれ中心となって土地所有と鑑定、空間情報管理、土地利用計画のFAO向けの3篇の報告がまとまった
- アブジャのFIGワーキングウィークで上記テーマの3論文が提出された
- FAOのボランティアなガイドラインの啓発活動の一部としてのe-ラーニング

の教材作成に Mitchell が貢献。Zevenbergen は必要に応じて査読の準備がある

本件については、FAO の人事異動などもあり、若干予定より遅れている。しかし 2014 年中には解決の予定。いずれにせよ第 7 部会としては FAO の重要な支援に感謝したい

### WG7.3 地籍の将来像

#### 方針

- 地籍の展望としての「地籍 2014 を越えて」
- 3次元地籍(第3部会と共同)
  - 3次元地籍：モデル、標準、空間情報基盤、時間の管理（4D）、登記
  - 優良事例とガイドライン：(法令、組織、技術の視点から)
- 地籍と炭素排出量管理
- 「空間的に能力強化された社会」タスクフォースへの参加
- 地籍管理システムの新たな道具立て

#### 成果

地籍 2.0 の国際シンポジウム紀要が出版され、1200 部印刷された  
シンポジウムの結果のフォローアップとして 2014 年末に地籍 2.1(仮題)が FIG より出版  
予定。関係者の参加、ビジョンの促進、新技術とソーシャルメディアに関するソリューション作成の実行状況より成る。

ウェブ 2.0 の利用に関する議論では、現在の土地行政の手順にソーシャルメディアを統合してゆくなれば、専門性、教育と資格、継続的な専門の発展の重要性について相談するために世界中の専門家団体に接触を求める仕事の発展が重要になるであろうとのことであった。

### 3次元地籍に関する第3部会第7部会合同WG

以下のワークショップを開催した

- 2011年11月デルフト 紀要出版済み
- 2012年10月深圳

2014年11月にドバイでワークショップが企画されている

WGは2010-2014における3次元地籍の現状についてアンケートを行った

ウェブサイトには3次元地籍に関する文献の目録を掲載

「Computers, Environment and Urban Systems」の40巻が3次元地籍の特別号として発行された

## WG7.4 土地管理の革新

### 方針

- 地籍と土地管理の改革
- 国有地の管理
- 土地管理の管理制度

### 成果

FAO およびハンガリー地方開発省と共同で2012年にブダペストにおいて社会主義から変換する国における国有地の管理、課題と展望と銘打ったセミナーを成功裏に開催した。会議には26の国々から65人が出席した。会議出席者にはFAOからの補助が出た。論文は地方開発省のウェブサイト、で読めるしFIG、OCRIFでも利用できる。また、2014年末には200ページの電子出版として国有地の管理に関する論文集を出版予定である。

### 土地所有に関する国際機関との連携

上記FAO、UN Habitat FGFとの連携以外にも、第7部会は世銀、と連携してワークショップをいくつか開催している。  
(原文にはリストがあるが省略)

### 今後の行事

(省略)

#### 【報告及び2011年と2014年の会議にもとづく感想】

今期の注目点は、仏語、西語圏への積極的な展開、住民参加、貧困対策としての土地管理など従前以上に第3世界に目配りをした活動と、それを支えるインターネット、SNS、オープン化などの技術動向への対応である。

我が国では土地所有規模や地価の関係で精度要求が高いことからあまり注目されていないが、FIG第7部会ではスマートフォン/タブレットとオープンストリートマップの組み合わせによる住民参加には大きな関心もたれており、会議では測量技術者だけではなく、法曹関係者が積極的に発言している。

3次元地籍についても継続的に検討がすすめられているという報告がいくつかの国からされているが、我が国でも地籍調査の一層の進捗を支援するとともに、並行して行政のツールとしての「3次元情報と地籍情報を統合して権利関係の統括的処理が可能なシステム」を考えるべき時代が来ていると思われる。技術的には3DGISでしかないので、むしろ何を統合すべきか、どのような仕組みで情報共有をするかの見当が重要なのであろう。

また、スラムの解消と自然災害への耐性の向上のための土地区画整理手法の適用では、

我が国の経験が注目され、JICA を通じた支援が実際に行われている例などが報告されており、土地の問題は優れてローカルなことながら、柔軟な思考で対処すれば、我が国も世界に貢献できるし、その中で経験を積んだ測量者が新たな活躍の場を開拓できる可能性があると考えます。我々には関係なく見える社会主義から資本主義への転換過程での土地の取り扱いに関しても、なじみ深い等価交換方式の採用など、我々の経験の活かせる場面が多々あるように思えます。

JFS 第 7 部会と第 9 部会では、前期に地籍データの活用に関する勉強会を開催したが、今期は FIG の動向の紹介にとどまった。上記のような FIG の動向を踏まえて、部会の皆様のご協力を得て新たな意見交換の場が持てればと考えている。